

大木戸遺跡

大木戸遺跡は、笛吹川と重川に挟まれた甲州市塩山下於曾・熊野地区に位置しており、両河川よって形成された南にゆるやかに傾斜す扇状地のやや小高いところに立地しています。

発掘調査によって、平安時代後期の^{たて あな じゅう きょ あと}竪穴住居跡9軒をはじめとして、^{ど こう}土坑・ピット67基、^{たて あな じゅう い こう}溝跡7条、^{たて あな じゅう い こう}竪穴状遺構1基などが発見されました。

調査によって発見された遺物には、縄文時代中期の土器・石器をはじめとして、平安時代の^{は じ き}土師器・^{す え き}須恵器・^{かい ゆう どう き}灰釉陶器・^{りょく ゆう}緑釉陶器などの土器類、^{とう す かま}刀子・鎌などの鉄製品、^{と いし}砥石、^{ど すい}土錘などの土製品、^{か じ}鍛冶に関わる遺物などがあります。

本地域は、『^{わ みょう るい じゅ しょう}和名類聚抄』に記載された、「山梨郡於曾郷」の中核を成す集落であったものと思われます。

(甲州市教育委員会・山梨文化財研究所)